

一つひとつは小さな作業でも、日々の積み重ねが『安全』につながっています

東北電力では『安全を尽くして、安心を皆さんに』を合言葉に社員一人ひとりが業務に取組んでおり、東通原子力発電所においても様々な活動を行っています。今回のPSつうしんでは、そうした数ある活動の中から、普段から行われている『日常的な取組み』にスポットを当ててご紹介いたします。

日々、発電所の状態を確認!地道な作業が発電所を支えます

発電所の中央制御室では、発電所の状態を示す各計器の少しの変化も見逃さないよう、運転員が24時間体制で運転・監視しています。また、毎日定期的に設備のパトロールを行い、故障の未然防止・早期発見に努めています。

放射線についても定期的に測定を行い、厳重な監視・管理により、被ばく線量低減に向け取組んでいます。



3交代、24時間体制で運転・監視を行います

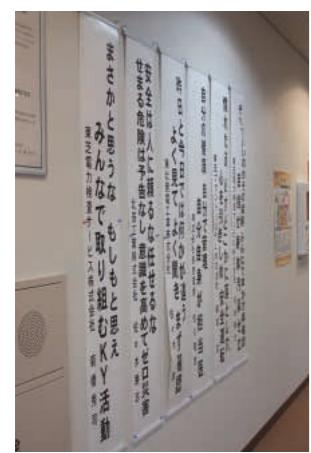


放射線の測定結果を記録して安全を確認します

さらに発電所敷地内にある原子力技術訓練棟で、万が一に備え、様々な事象を模擬しながら迅速かつ確実に対応できるよう、徹底した訓練も行っています。

約230名の社員一人ひとりが、各自の持ち場で役割を担い、確実に実行することが、発電所全体の安全を支えているのです。

協力会社と連携をとり、安全意識向上にむけ工夫を凝らしています



正面玄関に掲げた安全標語

発電所には社員以外にも、数多くの協力会社の方々が働いています。安全は何か一つが欠けても成り立ちません。そこで、当社と協力会社の意思疎通を図るために、各社が参加する会議の場を設けるなどして、安全作業に関する知識や情報を共有するなど、コミュニケーションの充実を図っています。

また、発電所で働く方々全員から『安全標語』を募集し、優秀作品を発電所内に掲示したり、作業時の注意点や過去の事故事例のポスターを各所に掲示するなど、ヒューマンエラー防止と安全意識の向上に努めています。



掲示内容を確認し、作業に活かします

危機管理面での活動も強化しています

これまで消防訓練について何度か紹介していますが、東通消防署のご協力のもと、消防設備の使用方法を学んだり、酸素ボンベ装着訓練を行うなど、迅速かつ適切な行動ができるようスキル向上に取組んでいます。



装着訓練に取組む当社社員

また、情報管理の面でも対応策を講じています。情報管理の徹底は非常に重要性が増しており、当社でも社外からのウイルス流入阻止はもちろん、社内からの情報流出に備えて技術的な対策を施しています。また、実際に情報を取扱う社員の意識が重要との考えのもと、情報を扱う能力の向上を含めた社員教育を実施するなど、危機管理に対する意識向上も図っています。

これからも社員・協力会社の方々が一丸となり、地道な作業を積み重ねながら「安全最優先」を第一に取組み、地域から信頼される発電所を目指してまいります。

電気について、ちょっとだけ考えてみませんか~3月25日は電気記念日~

日本に電気が灯ってから130年余りが経ちました。今では、テレビ・パソコン・エアコンと様々な形で電気が使われるようになり、当たり前のようないわゆる存在になっています。電化製品の普及・進化により、年々、電気の使用量が増えてきました。



～電気記念日とは～

明治11年(1878年)3月25日、東京に電信中央局が新築され、祝賀会が工部大学校(現在の東京大学工学部)で開催されました。その祝賀会において工部

大学校教授のエアトン氏が、日本で初めてアーク灯を点灯させました。

このことから、社団法人日本電気協会は、日本における電気事業の発祥を記念するため、昭和2年(1927年)に3月25日を『電気記念日』と制定しました。

3月25日は『電気記念日』です。普段何気なく使っている電気について、省エネや地球温暖化防止の観点から、見つけなおしてみませんか。